

2024/12/9 (月)

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 12章 35-36節 (新約聖書 131頁)

腰に帯を締め、灯をともしていなさい。主人が婚礼から帰って来て戸を叩いたら、すぐに開けようと待っている人のようにしていなさい。

迎える

聖書の民は何百年も救い主を待っていましたが、そのイメージは侵略者である大国を倒す王様のイメージでした。救い主は由緒ある家柄に生まれ、立派な教育を受け、知恵と力に満ちた王子様に成長すると信じていました。

ところが期待していた王子様は小さなベツレヘムという村の、それも冷たい風が吹きすさぶ馬小屋で生まれました。温かな寝床の代わりに家畜の餌を入れる飼料桶に寝かされました。マリアとヨセフの他は誰からも迎えられず、誰も救い主の誕生に気づきませんでした。

同じように私たちも神様の救いを待ちながら、何か勘違いしているのかもしれない。見当違いの救いを期待しているのかもしれない。そして実は知らない間に、もう救いは来ているのかもしれない。それに気づいていないだけなのかもしれない。

イエスはご自身を婚礼から帰って来る主人にたとえました。主人はいつ戻ってくるのかわかりません。だから灯をともして待つ人のように闇の中でも祈り待ち続けなさい。帰ったら、戸を叩くようにあなたの心の扉を叩くので、開いてわたしを迎えなさいと言っています。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたはこの世で最も闇の深い時に、小さなベツレヘムの村の馬小屋に人知れず誕生されました。その頃も、今も、絶えず救いを待ち望む人々の祈りが献げられています。どうか愚かにも分かれ争う人々に悔い改めの心を与え、嘆き悲しむ人々の祈りを省み、ひと時でも早く平和の時を与えてください。あなたはこの世の光、平和の君として来られ、永遠に共におられる方です。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン